

夕刊



常磐時評

「棒程願つて針程達す」

従つて希望は廣大に持つべし、常に希望に満ちておらぬる。

英雄教育に心せよ

楠太郎

は前途の光明を望見すべきなりと

然して其の實例と

して足輕より立身したる維新の公侯爵、尾張の百姓よ

り出でたる豊臣秀吉等の赫

々たる偉人の跡をひび、教

ひ、指導せるの風あるは青

少年時、必要事にして吾人

も亦左様に考へたるものな

り。然れども彼等の赫躍たる

彼岸に達する迄の幾多の波

瀬においては勿論教ゆる所

あれども、青少年の頭には

少年時より培はれたる「お

れは大將になるのだ」と言

ふ「貫したる何とはなき」

あこがれ」に火を注ぎ、少

年期を過ぎ青牛期に入り而

て壯年期に至りて、社會の

才より凡廿年の學校教育を

受けて、諦を得ず、悶々と

失業者の群を見る現状なり

斯くして是等の失業者、獨

夏井川改修で架け換えられ

餘名の發火演習を行ふこと

ひられしこと、處世との上

に非常なる満足ありて、容易

に立身の途なきは勿論満七

人となり、幼・壯年時代教

受けて、諦を得ず、悶々と

失業者の群を見る現状なり

にもかしがり「おーそれ

では此の機會を利用し今秋漫談等の餘興ある筈であ

だ」誤解を抱き至る例妙の防空演習を控へ軍事思想の餘興ある筈であるので

ば今日の犯罪の表面に現は

からず、然して簡単に考へたる事象は皆く措き其の

心の底には自己の希望と現

實の空虚を満たさむとする

心の急しさを一舉にして現

せむとする人心の誤れる

現せむを見る可とせむ

本春來關方面に起れる

地より統計主要性再認識の

縣局である

完全なる統計からとの見

師は當野統計課長並に大山

昭和六年九月九時盛大に

は此の外終日及ぶ煙火並に

花火を放つて開催する筈であ

るが、當野統計課長並に大山

昭和六年九月九日未明

は此の外終日及ぶ煙火並に



心

(完)

多賀達夫

心

經濟更生は二宮先生の效

へを實行することに依つて

成功する、各の御参考と

なれば幸甚である

田代俺は落としてゐる。

いつも電話位はあるが六

七萬六千九十八人で其内

内地人十八萬一千八百四十

は内地の芝居で有名な和店

あります。

のであります。

『さうか、／＼、だらしな

る。しかも知りんな。

しかしそ

ちは持つてんだ。君よ

もまだ昔の仲間を慕ふ心持

ちは持つてんだ。尊敬する

ある、東北人には相應し

問しかない暗い塵敷ばかり

だ——俺は歌ふぞ、歌つて

やるぞ！』

『その、蒼くさい、感傷主

義が、いやだよ、眞つ平だ

萬歳が三唱された。佐井信

手紙を書いてみると下で

安着の報を出した。村長

校長、職員、家、大屋。以

上五人。

太郎先生が見えられたので

手紙を書いてみると下で

安着の報を出した。村長

校長、職員、家、大屋。以

上五人。

太郎先生が